

サティの楽譜の中にみられる言葉 ~ 演奏家からの提言 ~

柴野さつき (ピアニスト)

有限会社尾島事務所 ~ 千葉県浦安市美浜1-3-404 (chainon@st.rim.or.jp)

1 はじめに

総じて演奏家というのは言葉と縁の薄い種族だと思われます。あえていうならば音そのもの
で思考しているところがあるからかもしれません。

とはいえ、曲のタイトルから受けるイメージ、楽譜上に現れる音楽用語などと全く無縁なわけ
ではありません。しかし長い音楽の歴史の中で使われてきたそれらの指示用語は、曖昧な意
味のまま記号化されているのが現実です。一つの言葉の意味に多くの作用があり、それらにつ
いて考えるようにメッセージを打ち出したのがフランスの作曲家エリック・サティです。

サティの言葉が私たち演奏家の解釈にどのような影響を与えているのかを、探っていきたい
と思います。

2 内容

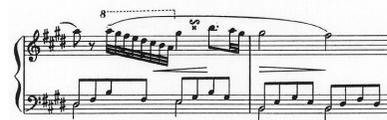
1部では「典型的なクラシックの楽譜にみられる言葉」と題して、楽譜の基礎的な解読法を行
います。ツェルニー練習曲の一部をテキストとして譜表と音符のみの楽譜(譜例1)に、速度、強
弱、奏法、曲想に関する表示(譜例2)を加えていき、演奏家はそれに対してどのような反応をする
のか、自ら演奏しながら進めていきます。

典型的なクラシックの楽譜にみられる言葉

譜例1：譜表と音符のみの状態



譜例2：指示表示を加えた状態



ツェルニー百番練習曲より

2部では「エリック・サティ作曲グノシエンヌにみられる言葉」と題してサティが楽譜上に書い
た表示(譜例3,4,5)のなどを解き明かします。これらは音楽とは何の関わりもないナンセンスな言葉
と一般的にいわれていますが、演奏家にとってこれほど明確な指示はないということを演奏を通
して実証していきます。